

荘銀グループ
展望台

投資信託による個人資産の運用

「何もしないこと」のリスク



荘内銀行
資産運用サービス部
渋谷 浩

これまで日本人は金融商品のリスクについて、「元本割れリスク」を強く意識してきた。しかし、社会・経済構造の大きな変化に合わせて、中長期的な資産運用において考慮すべき「リスクの質」も変わりつつある。そこで、ここ数年広く注目され、身近な金融商品になってきた「投資信託」による資産運用について考えてみる。

貯蓄好きの日本人

日本の個人金融資産（総額約千四百兆円）の内訳は、その統計データが示す通り九〇％程度が元本保証を重視した預貯金や保険・年金商品で占められている。一方、収益性やインフレヘッジを考慮した株式・債券（投資信託を含む）などでの運用は、残りのわずか一〇％程度に過ぎない。この日本人の預貯金偏重は欧米人の運用形態と単純に比較され、投資運用の必要性がこれまで何度も叫ばれ続けてきた。しかし、バブル崩壊以降の資産デフレの中に身を置いてきた日本人にとっては、投資運用をそれほど真剣に考える必要はなく、キャッシュ（預貯金）を中心とした運用手法は賢い選択でもあったといえる。

資産運用を取り巻く環境変化

「私には関係ない」。これが投資運用に関する

多くの人々の反応であったが、ここ数年で日本人の資産運用に対する考え方も変化が起きている。その大きな要因の一つは少子高齢化の進展による年金不安である。国や会社任せの制度から自助努力型に転換する確定拠出型年金の導入企業は拡大を続けており、老後資金の準備のために投資信託による運用を始める人が増えている。また、景気回復期待を背景とした世界的な株価と金利の上昇や、原油価格の高騰などが話題となり、世界の景色がこれまでのデフレ一色から、インフレ懸念へと変貌していることもある。これらはデフレ経済下での賢い運用手法に対するリスクの顕在化を意味しており、日本人が得意としてきた安全志向である「何もしないこと」のリスクを意識させている。

ヘッジファンドの大衆化

「フルーツ王国」は、これまで投資になじみのなかった「個人預金者」のための投資信託として開発されたものである。投資信託は専門家に運用を、お任せできる」という仕組み上のメリットを持つが、そのお任せできる範囲はごく限られている。例えば日本株式ファンドなら、数千社ある上場企業の中からどの企業に投資すべきかの判断はお

銀行による投信販売の浸透

このようなリスクに対する意識変化の中

任せできるが、「これから日本株式は上がるのか？それとも下がるのか？」というタイミング判断まではお任せできないのである。すなわち、投資運用において極めて困難かつ重要であるマーケットの先行き予測は購入者自身が行うことになるが、この最終判断こそが投資成果のほとんどを決定づけてしまうのが現実である。

そのような「最終判断こそ専門家にお任せしたい」というニーズに対応し、専門家にお任せできる範囲を拡大したのが「フルーツ王国」である。専門家が投資先の選択のみならず、二十四時間体制で各マーケット動向の予測判断を行い、先物売りというヘッジ手法を活用して機動的に資産と通貨の配分変更まで行う「完全お任せ型ファンド」となっている。これまでの一般的なファンドにはなかったコンセプトと安定的な運用実績への評価は、投資初心者から機関投資家に至る幅広い顧客層へと広がりを見せているところである。

一般的ファンドの見直し

もちろんお客様のご運用ニーズは多種多様であり、当行では一般的な内外株式ファンドや外国債券ファンド等についても厳選の上で幅広い品揃えをはかっている。今年四月には、経済成長力への注目度が高い中国企業の株式に投資する「チャイナ・ロード（愛称・西遊記）」をはじめとする三本の内外株式ファンドの取扱いを開始した。

昨年来の世界的株価上昇の中で株式投資への関心は高まっているが、今後一段の中長期的なインフレを伴う経済成長を視野に入れた時には、投資効率向上のためにも国別・業種別・企業別の成長力格差に着目した選別投資

への期待は大きい。新たにラインアップした三本の内外株式ファンドは、先述の中国企業の他、世界のヘルスケア・バイオ企業、国内中小型企業の株式に厳選投資するファンドであり、より多様な投資ニーズにおこたえできるものと考えている。

また、当行では全取扱ファンドのデータを分析しており、運用成績が良好なファンドの中から値動きの異なるファンドを複数組み合わせることで、より安定的なリターン

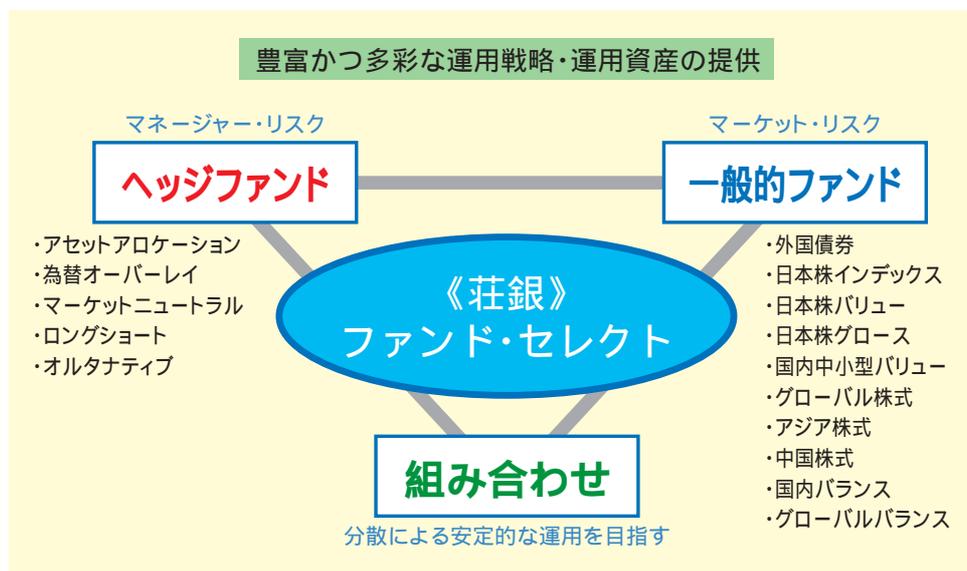
個人預金者へのメッセージ

「リスク」という言葉には後ろ向きなイメージがあり、ましてや証券投資のような元本割れリスクには手を出したくないと考える方がまだまだ圧倒的に多い。しかし、証券投資特有の元本割れリスクをあえて取るからこそ、将来の生活上で起こり得る、単なる元本割れとは質の異なるリスクを低減または回避する効果（リターン）が期待できるのである。

欧米人と比較した日本人の資産運用における特徴は、圧倒的に預貯金のみ

に頼って資産運用を行っている点である。デフレ経済下での表面的な元本割れリスクへの意識と対策は世界一であったといえるが、未来永劫この運用手法だけが「安全確実」である保証はない。

《莊銀》ファンド・ラインアップ



社会・経済状況を考慮した上で、今後の長い人生の中で起こり得る老後資金リスク、医療費増大リスク、インフレリスク等を自分の事として考えてみるのが大切である。その上で、「何もしないこと」のリスクが投資リスクよりも大きく感じる「発想の転換」がはかれた時には、一万円からできる「投資信託」を利用して投資運用への第一歩を踏み出して欲しい。